

**岳連ニュース**

**宝永**

URL: <http://www.shizuokakensangakulenmei.com/>

**静岡県山岳連盟**  
〒422-8076  
静岡市駿河区八幡3-1-17  
TEL (FAX) 054-288-7512  
編集発行/総務委員会  
平成25年1月28日発行



廃寺跡 休憩



開会式

平成24年度の「しずおかスポーツフェスティバル」登山大会が11月18日(日)、県の最西端の地、湖西市の「湖西連峰」を会場として開催された。湖西連峰は弓張山脈の南端に位置し静岡と愛知の県境を南北に連なる標高100メートルの山々で自然歩道が整備され、ハ

イキングを楽しみむ人々に広く親しまれている。今年には山岳連盟の西部ブロックの担当で湖西連峰ハイキングコース開発委員会と湖西市観光協会の後援を得て実施し、県内各地から一七名の参加があった。前日の雨も上がり、風は強いものの、眼下に見下ろす、浜名湖の

絶景や遠く雪化粧の南アルプスや富士山を眺めながら、紅葉の湖西連峰の山旅を楽しむことができ、参加者からも好評を得ることができた。

**コース** 梅田公園(バス)ーおちばの里親水公園ー不動の滝ー廃寺跡ー多米峠ー神石山ー仏岩ー梅田公園

**登山大会**

**平成24年度スポーツフェスティバル 湖西連峰に集結**

**県内岳人**

**日帰りコースのみに**

今回3月早々にはブロック会議を開催し、コースの概要と担当を決め6月にはコミュニティセンターを押しさえ、7月には実施要項を作成した。夕暮れの早い時期で、集合時間設定に悩んだ。そんな中、湖西市長選挙と大会が重なり、コミュニティセンターが投票所となることから使用ができなくなった。

急遽、他の施設を探したが中折り合いがつかず、やむを得ず泊二日のコースを中止し、日帰りコース1本で実施することにした。泊まりのコースに申し込まれた方には、コース変更をお願いするなど、大変なご迷惑をおかけしました。

大会は、日帰りコースのみとなったが、天候に恵まれ、予想を上回る方々に参加頂き、大変ありがたく思います。

平成25年度のスポーツフェスティバル登山大会は、東部ブロックが担当し東部地区で開催する。未だ、計画が煮詰まっていはいないが、期日、会場、コース等の概要については、5月の総会には、会員の皆様に提示できるようにブロックで準備を進めている。

**25年度東部で開催**

平成25年度のスポーツフェスティバル登山大会は、東部ブロックが担当し東部地区で開催する。未だ、計画が煮詰まっていはいないが、期日、会場、コース等の概要については、5月の総会には、会員の皆様に提示できるようにブロックで準備を進めている。



www.shizuokakensangakulenmei.com

**11月常任理事会**

11月12日、常任理事会が静岡労働会館で開催された。滝田会長から「宝永2号」の配布部数を5部にしたと報告があった。

一 報告事項

① 指導委員会

\*平成24年度少年・少女登山教室をH25年2月に実施の予定。

\*静岡県山岳連盟指導委員等研修会をH25年1月27日(日) 9時〜12時

\*HPで安全登山の呼び掛け

② 国体委員会

\*第67回国民体育大会『ぎふ清流国体』山岳競技の結果・入賞なし

\*第13回静岡県高等学校クライミング競技会、10月27日於浜松スクエアで実施。8名が全国大会出場

二 協議事項

① 海外トレーニング講習会(出利葉氏)

\*今年度も東京より講師を呼んで実施する(H25年2月10日又は17日)

② 平成24年度第15回

竜爪山岳競技会(高体連、清水氏)

\*日程を例年より1週間ずらし、12月16日に実施。実施要領は例年通り。

\*岳連からの参加者は…滝田、木ノ内、豊田、前川の4名。8時30分までに現地集合。

③ 平成24年度スポーツフェスティバル(豊田氏)

\*湖西市長選の関係で会場が使用できずに11月18日(日)の日帰りCコースのみとなった。

\*一般市民を含め80名の参加予定、駐車場も完備しているので奮って参加して欲しい。

④ 第52回冬山講習会(滝田氏)

\*平成25年2月2日(土)〜3日(日)、富士山双子山付近

\*内容は例年通り(実施要項)

⑤ 平成24年度少年・少女登山教室(塩沢氏)

\*岳連としての初めての行事、経費面より定員確保に努めたい。

\*各種意見(安全に配慮、同意書の要否、大

人の参加費高くても良い、登山用品店を利用した広報など)

⑥ 平成24年度競技委員会ブロック別研修会

\*平成25年2月23日〜24日、国体の運営員及び審判員対象

⑦ 安全登山のための10箇条(田中氏)

\*文章の簡略化、適切な表現にする必要ありとの意見。

\*遭難対策委員会とも連携を取り、又各理事よりのコメントを貰い

纏める。

⑧ 平成25年県岳連カレンダー

\*本日現在、75部残っている。未購入加盟団体への依頼を出す。

⑨ 初級レスキュー講習会(遭対委員会)

\*平成25年2月16日、9時〜17時、初級、テーピングほか

\*3月に中級を予定している。

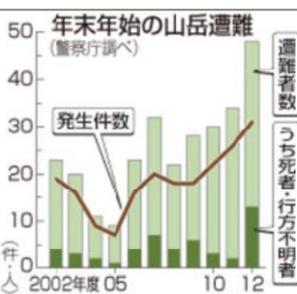
⑩ 東海ブロック正副会長・理事長会議

\*該当者が出席

**山岳遭難が過去最悪 年末年始**

年末年始(昨年12月29日から今年1月3日)の6日間に全国で31件の山岳遭難があり、48人が遭難し、死者・行方不明者が13人上ったと警察庁から発表があった。いづれも統計のある平成14〜15年の年末年始以降最悪となった。

無事救出も含めた遭難者の内訳は死者が5人、行方不明者が8人、負傷者が10人。25人は無事に救助された。発



**県内3件、2人死亡**

県内では年末年始、3件の山岳遭難事故が発生し、男女2人が死亡した。

死亡したのは、単独で富士登山をしていた福島市の男性(39)と、藤枝市の「市民の森」で父親とハイキング中に行方不明になった女性(26)の2人。

山系別では富士山が2件、藤枝・市民の森1件。富士山で遭難した

て救助された19歳の少年2人は、革ジャン・チノパン・スニーカーの軽装で食料や懐中電灯もなく、軽い気持ちで入山したようだ。

**編集後記**

年末年始に遭難が相次いで起こり過去最悪となった。特に4人行方不明の剣岳小窓尾根の遭難が気になる。冬山の小窓尾根の登攀は岳人の憧れであった。小生らも小窓尾根からチンネ登攀が最高の目標だった。幸いにもその目標はクリアすることができたが、厳しい登攀であった。そこは岩と雪・氷の世界で、雪庇の踏み抜き、滑落、雪崩、天候の急変等の危険が常に付きまとい体力と技術、メンタル、経験では克服できないものを感じる。

小窓尾根を目指すには豊富な経験と入念な準備をして入山しただろうが予期せぬことが起こったのだろうか。

(tk)

### 第15回竜爪山岳競技会

## 髙島谷 小川 優勝

竜爪山岳競技会が、12月16日(日)第15回目を迎え、129名の選手が参加し、静岡市の平山・竜爪山域で開催された。

本大会は、国体山岳競技の縦走が廃止となった後も、主として高校生・部活の成果を試す手段の一つとして、縦走形式のタイムトライアルとして岳連が実施している。

団体は男女別に同一高校の上位3名の選手の時計の合計で順位をつけ、3位まで表彰している。

今年も、参加高校も8校に増え、少年男子101名、少年女子24名と成年男子4名が参加し、競技が行われた。前日の雨も上がり、天候も快晴で風も無く良い競技日よりとなった。

高校男子		団体男子	
1位	島谷 有亮 浜松日体高	1位	浜松日体高
2位	小杉 実 浜松日体高	2位	藤枝東高
3位	伊達 善行 浜松日体高	3位	富士高
4位	杉浦 太 浜松日体高	団体女子	
5位	勝又 駿人 富士宮西高	1位	富士宮西高
6位	本橋 和也 藤枝東高	2位	日大三島高
		3位	浜松北高
高校女子		成年男子	
1位	小川 茜 富士高	1位	宮津洸太郎
2位	中里 春香 富士宮西高	2位	石橋 武志
3位	小山 紗莉 富士宮西高	3位	鈴木 和也
4位	青木 那奈 藤枝東高		
5位	大畑 美月 藤枝東高		
6位	三田 晃子 日大三島高		

競技は、三本松下をスタートし林道を走る。新道、穂積神社を經由して薬師岳山頂をゴールとするコースで実施した。結果は、浜松日体の島谷有亮(少年男子)がタイム57



分14秒)、富士高の小川茜(少年女子)(タイム1時間13分16秒)が抜群の記録で優勝した。その他の種別は次のとおり。成年男子・宮津洸太郎(タイム1時間3分9秒)。団体の少年男子は浜松日体高校、少年女子は富士宮西高校が優勝した。(前川)

### 第3回全国高校クライミング選手権大会

## 浜松日体2位、宮西5位

### 学校別で健闘

第3回全国高等学校選抜クライミング選手権大会が埼玉県の加須市民体育館で12月22日、23日に行われた。静岡県からは男子4名(浜松日体高の田邊、吉田、鈴木、富士宮西高の大嶋)女子4名(浜松日体高の野村、富士宮西高の青木、望月、佐野)の総勢8名だ。

予選は昨年と同様にフラッシュ2本で26名が準決勝に進出できる。男子は田邊が2本完登し、吉田も1本完登で準決勝進出を決めたが、鈴木と大嶋はわずかに届かずそれぞれ28位、29位で予選落ちした。

女子は青木が2本完登、望月が1本完登で準決勝進出。佐野と野村も健闘したが36位、38位であった。グレードは男子が11d、12a、12b/c、12c/d、女子が11d、12aであったと思われる。翌日行



滑落停止とコンテニニアスを研修  
指導員研修会が1月27日、静岡市の静岡リ

われた準決勝は男女とも力を出し切れずに決勝進出はならなかった。決勝に進出するために心・技・経験のいずれも足りないことを実感させられた。各学校の上位2名の合計成績で決まる学校別では、浜松日体高が男子で2位、富士宮西高が女子で5位と両校とも入賞した。(難波)



ハビリ専門学校で指導委員会が主催して開催された。従来、実施が滞っていたものを再開した形だ。指導員の義務研修にも該当し、19名の指導員が参加し、雪山における滑落停止とコンテニニアス確保について研修した。滑落してすぐ停止体勢を作る練習方法について問題提起し、停止時の基本姿勢と応用動作、ピッケルなしの滑落停止など見本を示し、指導方法の確認をした。コンテニニアスで安全な方法は何かなど、大阪方式、東京方式、ガイド方式などについて、実際の型を呈示し、それぞれの特徴について研修し、体験に基づく有益な意見が多くでた。

## 男子 吉田 青木 優勝

### 第13回静岡県高校クライミング競技会

第13回静岡県高校クライミング競技会は、ライミング大会は、第3回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の予選をかねて、10月27日(土)浜松スクエアクライミングセンターにて4校35人の生徒が参加して行われた。予選、決勝方式で決勝では時間計測を取り入れ、まず女子の予選はカンテ状からフェイスのルートで、完登した4人を含め、6人が決勝進出(グレードは11a)。男子予選は、メインルーフを正面より超えるルートで16人は下部の

に進んだ。(11d/12a)。女子決勝はメイン壁を真っ向から登るルート(12a)で、唯一最後の第3ルーフを超えに迫った富士宮西高の青木麻優が優勝。男子は、出だしから敵



第一ルーフの周りでフォール。その部分を突破した9人のうち8人が完登し決勝

男子		
1位	吉田隣生 浜松日体	
2位	鈴木正信 浜松日体	
3位	大嶋康司郎 富士宮西	
4位	西沢祐紀 浜松日体	
5位	伊藤優輝 浜松日体	
6位	沖 健太 富士宮西	
女子		
1位	青木真優 富士宮西	
2位	望月香菜子 富士宮西	
3位	佐野知美 富士宮西	
4位	野村いぶき 浜松日体	
5位	村野加奈 富士宮西	
6位	中里美香 富士宮西	

しいホールドが続きテクニカルで体幹の要するルート(12c)である。浜松日体高の吉田隣生、鈴木正信君が同地点でフォール。タイムで吉田の優勝となった。男女とも各4名(日山協推薦各2名を含む)の計8名が全国大会に駒を進めた。

このような大会を通して多くの学校でクライミング競技への関心が高まり競技力が向上することを期待したい。会場を提供していただいた浜松スクエア及び運営に協力してくださった多くの方々に感謝申

し上げます。12月に埼玉県加須市で行われる全国大会出場者は以下の通り。  
【男子】1位 吉田隣生(浜松日体・日山協推薦) 2位 鈴木正信(浜松日体) 3位 大嶋康司郎(富士宮西) 田邊匡律(浜松日体、日山協推薦)  
【女子】1位 青木麻優(富士宮西・日山協推薦) 2位 望月香菜子(富士宮西・日山協推薦) 3位 佐野知美(富士宮西) 4位 野村いぶき(浜松日体)(諸戸)

### 富士山頂奥宮登拝 最高齢者は94歳

富士山山頂の奥宮には、数え年70歳以上の者が記帳できる高齢登拝者名簿が置いてあり、富士山本宮浅間大社は平成24年の山頂奥宮高齢登拝者上位20人を発表した。

高齢登拝者は1556人で、上位20人のうち、男性が18人を占めている。最高齢者は94歳の広島県の男性で3回目の登山。女性の最高齢者は90歳の新潟県の女性で初めての登山。70歳以上の都道府県別

### 南ア冬山相談所開設 沼平指導センター

南アルプスの冬山相談所が、12月29日から1月3日までの6日間、沼平の指導センターで開設された。県遭対協からの要請により、県岳連から指導員を派遣した。また、警察の山岳救助隊員もその間常駐し、登山者の相談、指導及び天候や雪の状態などの情報提供を行い、

安全登山の一翼を担った。この期間の沼平からの入山者は、40パーティで茶臼岳・光岳方面が17パーティ、聖岳方面が11パーティ、赤石岳方面が6パーティ、その他が6パーティであった。何時ものことから単独の登山者が多く、積雪も多いためか途中で引返して来たパーティもあった。暮れから正月の冬山登山の遭難は、最悪と新聞が報じていたが、幸い沼平からの登山者には、事故は無かった。(滝田)

登山者数では、神奈川県が240人、東京都が203人、静岡県が118人、埼玉県が107人で上位を占めた。又、高齢登拝者20人のうち登山回数のもっとも多い人は、88歳の神奈川県男性で111回が最高。2位は89歳の大阪府の男性で50回、3位は88歳の神奈川県男性で27回であった。(岳朝)

### 富士山マイカー規制拡大 富士山スカイライン連日

富士山スカイラインの渋滞対策協議会は今年夏のマイカー規制について、7月22日〜9月1日間の連日となる52日とすることを決めた。昨年夏の34日間を18日上回る大幅な規制拡大となる。6月ごろとされる富士山世界文化遺産登が決めれば登山者の増加が予想されることと、昨夏の平日も路上駐車が発生していることが背景にあるようだ。